

こんにちは

会社訪問記

当社は環境製造企業です。

フルハシ工業株式会社(名古屋市熱田区)

製材業からスタートし、輸送用パレット、物流機器、リサイクル燃料の製造販売から建造物解体、製紙用チップ製造など幅広い事業展開を行うフルハシ工業株式会社。産廃に対するご意見を高取専務取締役にお話をいただきました。

——産廃に進出されたきっかけを教えてくださいませんか。

高取専務取締役(以下高取に略)『製材に携わっていると当然、製材クズが発生しますよね。これをなんとかリサイクルできないかという発想のもと、王子



高取専務取締役

製紙さんとの提携により木材チップの生産をはじめたのです。もう30年以上前のことです。廃材のいい物はチップに、残りは燃料に。これが廃棄物業界に入るきっかけですね。』

——今では収集・運搬から中間処分まで手掛けられているわけですね。

高取『ボイラーとリサイクル燃料供給をセットにしたプラントを商社と組んで全国に販売したり、廃プラスチック、廃発泡スチロールの有効利用に取り組んだり。これはこの業界はおもしろいぞ、ということで中間処分の許可を取得し、あらゆる廃棄物が処理できる体制を整えて本格的に廃棄物業界に進出したのです。だから、当社はこの業界でも異端児ですね。』

——廃棄物処理に対する基本的な姿勢を教えてくださいませんか。

高取『廃棄物は処理するのではなく、リサイクルをするもの、ということでしょうね。当社はこの業界にリサイクルから入りましたから。捨てると

か燃やすという発想が基本的にないのです。焼却するのであれば、必ずエネルギーに還元する、できる限り減量化を行う、これが当社の考え方です。』
——つまり、リサイクルを前提に全ての処理を行っているということですね。

高取『その通りです。100の廃棄物が出たら、100リサイクルをする。可能か不可能かは別にして。当社のポリシーでもあります。』

——では、これからの廃棄物処理に対してはどのように考えていますか。

高取『これからは排出事業者責任の明確化とリサイクルを掲げたドイツ型のスタイルになっていくと思います。ドイツは現在、あらゆる廃棄物の8割をリサイクルしようとしている。日本は全体として2割程度しかリサイクルしていない。この事実は、まだまだ5割はリサイクルできるという証拠です。地球環境の面から見ても、コストが高いためできないとはもう言えないと思いますね。』

——目先のことを考えてばかりではダメということですか。

高取『そうです。それに他業界から参入した者として口幅ったいことをいうようですが、この業界はクライとか危ないというイメージが強すぎる。みんなでキチッとネクタイしてナッパ服など着ずに、イメージチェンジを図るべきじゃないでしょうか。』



社名/フルハシ工業株式会社 所在地/名古屋市熱田区三番町4番28号
代表者/山口昭一 設立/昭和23年 従業員数/145名
TEL/052(661)1565代 モットー/「人のためになる仕事をする」
事業所/本社、3営業所、5工場 営業種別/収集・運搬、中間処分
取り扱い品目/木くず、建設廃材、その他産廃物